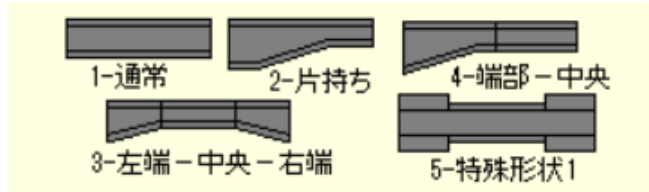
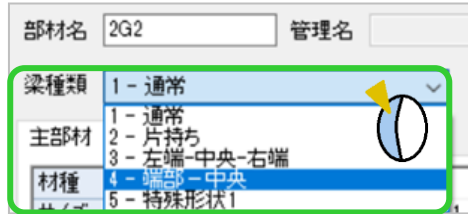


## ①梁のハンチ設定をしたい！（梁マスター①）

### 大梁マスターから設定できます。

大梁マスターで設定すると、一括でハンチの設定ができます。

【本体】 - 【マスター】 - 【大梁】 をクリックします。梁種類でハンチの設定方法を選択します。



【1-通常】：主部材と端部材の材種やサイズなどが同じでハンチなしの場合に使用します。

【2-片持ち】：庇など、溶接（スプライス無）の梁をマスター参照でハンチ設定する場合に使用します。

【3-左端-中央-右端】：主部材（中央部材）・左端部材・右端部材で材種やサイズ、ハンチ形状などがそれぞれ異なる場合に使用します。【主部材】・【左部材】・【右部材】・【補強板】の4つのタブを登録します。

【4-端部-中央】：左右端部材の情報は同じで、主部材と端部材の材種やサイズが異なる場合や、ハンチ設定する場合に使用します。【主部材】・【端部材】・【補強板】の3つのタブを登録します。

【5-特殊形状1】：ウェブは1本もので、フランジのみ板継ぎにして板厚・板幅を指定する場合に使用します。



ハンチ設定以外に、梁の材質が主部材とブラケットで異なる場合にも梁種類を変更し材質を設定します。

梁種類を【2-片持ち】、【3-左端-中央-右端】、【4-端部-中央】にした場合、

【ハンチWEB形状種類】もしくは【ハンチFLG形状種類】でハンチ形状を5つのタイプから選択します。

※【1-タイプ1】はハンチ設定をせず、材質を主部材と別に設定する際や、フランジのみハンチ設定する際に使用します。

ハンチ形状を選択後、各項目を設定します。

※設定項目は選択したハンチ形状によって異なります。

【梁側WEB幅】：主部材側のウェブ幅を入力します。

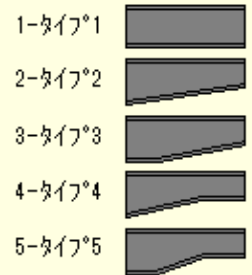
「0」と入力すると、主部材のウェブと同サイズに自動調整されます。

【ハンチWEB梁側】：ハンチにしたい梁側のウェブ幅を入力します。

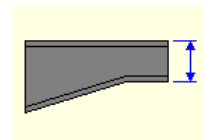
※【パラメーター】 - 【37.柱、梁作成関連】 - 14) 垂直ハンチ外基準の設定により入力基準が変わります。ハンチ長さの入力基準を【1-端部】・【2-柱面】より選択できます。

【ハンチWEBのR値】：ハンチのRを設定します。Rの設定が必要な場合は数値を入力します。

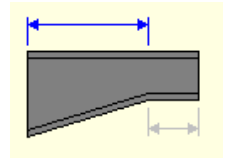
＜ハンチWEB形状種類＞



＜梁側WEB幅＞



＜ハンチWEB梁側＞



・【ハンチFLG形状種類】はフランジのハンチ形状の選択をします。

・梁種類が【3-左端-中央-右端】、【4-端部-中央】で更に【ハンチWEB形状種類】が【2-タイプ2】、もしくは【3-タイプ3】を選択した際は【中央梁折れ位置】の設定があります。

【中央梁折れ位置】は【端部材】の梁サイズのフランジ幅を参照してハンチを設定するため、【端部材】の梁サイズの数値を入力して登録してください。

## ①梁のハンチ設定をしたい！（梁マスター②）

### 大梁マスターから設定できます。

例）大梁 2G2 をすべて柱面から 300 の位置でハンチにしてスチフナーを配置する場合

【梁種類】は【4-端部-中央】を選択します。

【主部材】・【端部材/左部材/右部材】・【補強板】それぞれのタブに切り替えてサイズなどを登録します。

<主部材>

<端部材>

<補強板>

中央部材の登録を行います。

ブラケット側の登録を行います。

端部材に補強リブの登録を行います。

主部材	端部材	補強板
材種	2 - H形鋼	
サイズ	350x175x7x11	
材質	1 - SS400	
継手名(左)		
継手名(右)		
継手名(中)	GJ35	
使用階(上)	<なし>	
使用階(下)	<なし>	
階認識符号	1 - なし	
梁合わせ位置	1 - 上合わせ	
セットバック時のWEBプレート位置	1 - なし	
セットバック時のオフセット	0	

主部材	端部材	補強板
材種	2 - H形鋼	
サイズ	350x175x7x11	
材質	1 - SS400	
ハンチWEB形状種類	4 - タイプ4	
梁側WEB幅	0	
ハンチWEB梁側	300	
ハンチWEBのR値	0	
ハンチFLG形状種類	1 - タイプ1	
板継ぎ	1 - なし	
柱側継手名		

主部材	端部材	補強板
板種類	2 - スチフナー	
スチフナー部品	S-12	
スチフナー取り付け位置	1 - 内折れ側	
スチフナー位置	0	

例として次のように登録します。

【端部材】ハンチ WEB：4-タイプ4

ハンチ WEB 梁側：300

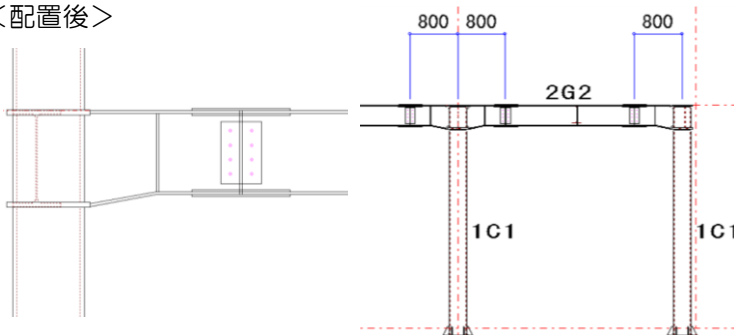
【補強板】スチフナー：S-12（※【マスター】-【部品】で登録したスチフナーを選択します。）

部材名	S-12	管理名		メモ	
部品種類	3 - スチフナー				
材種	1 - フレート				
サイズ	12				
材質	1 - SS400				
スカラップ種類	1 - パラメーター				
スカラップ径	0				

OKをクリックしマスターを閉じます。

マスター登録でハンチの設定をした梁を配置するとハンチ形状となります。

<配置後>



大梁マスターで梁種類を【3-左端-中央-右端】を選択し左部材と右部材タブで材種やサイズ、ハンチ形状などをそれぞれ異なる設定をしている場合は、配置時の入力シートで**梁マスター** **端部反転**の【2-あり】を選択すると、左部材、右部材タブで登録した情報を反転して配置します。

梁マスター設定サイズ



1-なし



2-あり



ハンチ形状にならない場合、【ファイル】-【パラメーター】-【37.柱、梁作成関連】-33) 垂直ハンチ合せ(mm)の設定値を確認・変更します。個別に梁を変更する場合は、【梁】-【修正】で左側または右側の【垂直ハンチ合せ】を「3-あり」に変更してください。

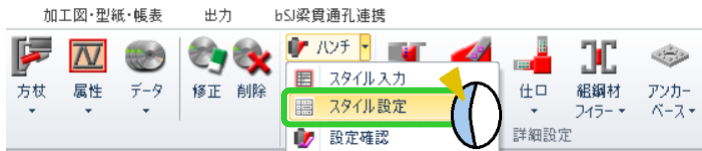


## ②梁のハンチ設定をしたい！（ハンチスタイル設定）

一部の梁のみの場合は、ハンチスタイル設定から設定できます。

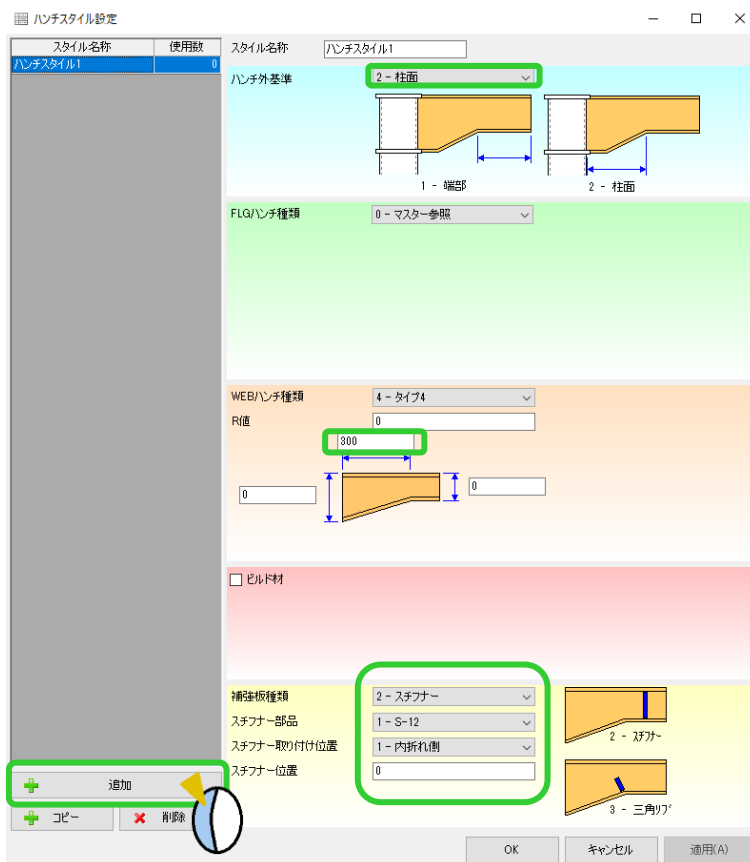
例）一部の大梁 2G2 を柱面から 300 の位置でハンチにしてスチフナーを配置する場合

【ハンチ】 - 【スタイル設定】 をクリックします。



ハンチスタイル設定が開きます。

追加をクリックし、以下のように設定します。

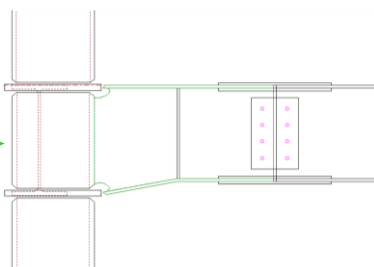
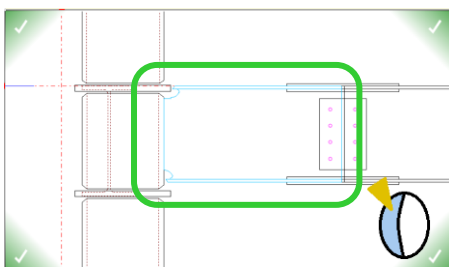


【補強板種類】のスチフナーはあらかじめ部品マスターで登録しておき、選択します。

OKをクリックしてハンチスタイル設定を登録します。

ハンチの入力を行います。【ハンチ】 - 【スタイル入力】 をクリックします。

入力シートでハンチスタイルを選択し、ハンチの設定をするブラケットをクリックして四隅の  をクリックします。ハンチスタイルが設定され、設定された箇所が緑色で表示されます。



ハンチで開くサイズを「0」で設定すると、直行する梁サイズに合わせて自動で開くサイズが設定されます。中央部材側も同様に「0」とすることで、中央部材と同サイズに自動調整されます。

左右の梁サイズが異なる場合は、大きい方の梁サイズに合わせて自動で開くサイズが決まります。

ただし、仕口詳細設定でダイア高さなどを変更している場合や、中間の内ダイアをめぐらしてハンチにしたい場合は開くサイズを指定する必要があります。

ハンチスタイルを複数登録する場合は、ハンチスタイル設定で追加をクリックして登録します。また、梁以外の部材にも設定することができます。

ハンチスタイルで設定したハンチは、【ハンチ】 - 【スタイル解除】で解除することができます。



【ハンチ】 - 【設定確認】で設定したハンチスタイルを確認することができます。